

専門英語（4年） コーディネーター：病態生理学分野 佐原資謹教授
 歯科矯正学分野 間山寿代講師

担当講座（分野）：FRコース（補綴・インプラント学分野）
 SmADコース（口腔顔面再建学講座）
 ASTコース（口腔顔面再建学講座）
 TxChildコース（口腔保健育成学講座）
 ADコース（補綴・インプラント学分野、歯科保存学講座）

第4学年 前・後期

講義
 前期 3.0時間
 後期 6.0時間

教育成果（アウトカム）

医学・医療のグローバル化、先進化にともない、歯科医学・医療についての情報を収集する場面、増加する外国人の歯科診療を行う場面など、様々な場面で、英語を用いたコミュニケーションを行うことが必要とされる。専門英語では、1) 医学の共通語としての医学（歯科）用語を学び、臨床実習のケースプレゼンテーションや歯科医師国家試験における“歯科医学、医療分野で必要とされる英語”に備えるとともに、2) 教養課程で学んだ英語をさらに発展させ、専門論文などを読む上に必要な読解力を習得することで、総合的なコミュニケーションスキルを高める。

（ディプロマ・ポリシー：2、7）

事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次の授業内容を確認し、テキストを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。適宜、事前学修内容の発表時間を設ける場合がある。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月9日(火) 1限	FRコース 担当教員	歯学の基本用語 1 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 補綴領域でよく使われる基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 補綴領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①]
7月20日(月) 4限	SmADコース 担当教員	歯学の基本用語 2 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. SmADのコースを通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. SmADのコースを通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①]
9月17日(木) 4限	ASTコース 担当教員	歯学の基本用語 3 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 口腔外科領域でよく使われる基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 口腔外科領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①] 事前学習：口腔外科領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答しておく。

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月13日(金) 2限	TxChild コース 担当教員	歯学の基本用語 4 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. 小児・障害者・矯正歯科領域に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. 小児・障害者・矯正歯科領域で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①] 事前学習：講義までにテキストにある問題を解答しておく。専門用語について調べて講義に臨むこと。
12月9日(水) 4限	AD コース 担当教員	歯学の基本用語 5 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1. AD のコースを通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3. AD のコースを通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [A-7-2)-①]
12月15日(火) 4限	佐原資謹教授 (病態生理学分野) 間山寿代講師 (歯科矯正学分野)	歯学の基本用語／演習 (到達度評価試験)	1. 客観的な評価(到達度評価試験)をうけ、達成度と理解度を知る。

教科書・参考書 (教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書 名	著者氏名	発行所	発行年
参	Dental Terminology 3 rd ed	Charline M Dofka	Delmar Cengage Learning	2013 年
推	Medical Terminology A short course 8 th ed.	Davi-Ellen Chabner	Saunders	2017 年

成績評価方法

各コースの臨床系講座(分野) 教員によるグループ学習、または対話形式の授業でおこない、到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。

特記事項・その他

- ・3年までに学習した英語・英単語を基礎に、将来必要とされる英語を用いたコミュニケーション力を養うため、ディスカッション・プレゼンテーション方式の講義を行う。そのためには3年次のテキストを必ず復習して講義に臨む必要がある。その上で臨床に用いられる各コースの専門英語を習得する。講義の途中あるいは最後にクリッカー、WebClass を活用して学生の理解度を逐次確認する場合がある。
- ・到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。各々個人で、英語での理解度、コミュニケーション力の向上に努めること。